

2015年3月4日

主催（公財）ミズノスポーツ振興財団

## 「2014年度 ミズノ スポーツライター賞」受賞者決定

（公財）ミズノスポーツ振興財団では1990年度より「ミズノ スポーツライター賞」を制定し、スポーツに関する報道・評論およびノンフィクション等を対象として、優秀な作品とその著者を顕彰しています。

3月4日（水）、グランドプリンスホテル高輪で2014年度選考委員会を開催し、受賞作品および受賞者を以下の通り決定いたしました。

なおこの「ミズノ スポーツライター賞」の表彰式は、4月23日（木）にグランドプリンスホテル新高輪で行います。

### 【ミズノ スポーツライター賞 最優秀賞】（トロフィー、副賞100万円）

- ・『洲崎球場のポール際』（講談社） 著 者：森田 創

### 【ミズノ スポーツライター賞 優秀賞】（トロフィー、副賞50万円）

- ・『球童 伊良部秀輝伝』（講談社） 著 者：田崎 健太
- ・『五輪の哲人 大島鎌吉物語』（毎日新聞東京本社 運動部） 著 者：滝口 隆司

詳細は別記の通りです。

## 記

名 称：2014年度 ミズノ スポーツライター賞

制 定 目 的：スポーツに関する優秀な作品とその著者（個人またはグループ）を顕彰し、  
スポーツ文化の発展とスポーツ界の飛躍を期待するとともに、これからの  
若手スポーツライターの励みになる事を願い制定

選 考 対 象：主として新聞・雑誌・単行本などを通じて書かれたスポーツ分野の報道・評論・  
ノンフィクション等で、当該年度に発表されたもの

選 考 委 員：委員長 岡崎 満義（元㈱文藝春秋取締役、「Number」初代編集長）  
委 員 杉山 茂（スポーツプロデューサー

元NHKスポーツ報道センター長）

〃 高橋 三千綱（芥川賞作家）

〃 ヨーコ ゼッターランド（スポーツキャスター）

〃 上治 丈太郎（(公財)ミズノスポーツ振興財団 副会長）

※順不同

対 象 者：日本人および日本在住の外国人

受賞者及び選考理由：

### ●『洲崎球場のポール際』（講談社）

著 者：森田 創（もりた そう）

洲崎遊郭で知られた江東区東陽町の一角に、昭和11年から13年までの間、誕生したばかりのプロ野球「大東京軍」の本拠地・専用球場として洲崎球場が存在していた。作品はプロ野球史から忘れ去られていた、この球場の誕生から放棄までの1年7カ月の歩みを丹念に掘り起こし、草創期のプロ野球を取り巻く多彩な人々の生きざま、そして戦争の影におびえながらも大衆文化が花開いていた当時の世相を浮かび上がらせる。

著者の忘れられた洲崎球場の探索は、当時の新聞雑誌の渉猟はもとより、資料や古地図を当たり、新聞に載った球場の航空写真をもとに復元模型まで作ってしまった。プロ野球史の欠落を埋めるといふ点からも、生前の川上哲治氏をはじめ生存者の証言を聞き訪ね、試合などもファンのヤジや選手の珍プレーで球場全体が笑いに包まれた様子が迫真の表現で紹介され、プロ野球観戦が大衆芸能と近い所にあったことを感じさせる。他方、昭和10年前後の表面的には陽気な世相の背後で戦争が着々と進行し、選手たちもその渦に飲み込まれていく流れをしっかりと見据えた鋭い視点は、戦前の社会風俗史的な読み物としても優れている。

### ●『球童 伊良部秀輝伝』（講談社）

著 者：田崎 健太（たざき けんた）

本書は自殺2ヶ月前に取材した同世代の著者が、伊良部のことを書いておきたいという一種の使命感に突き動かされて、彼を知る人間を訪ねて取材しまとめた伊良部秀輝伝である。それはまた著者が自ら書いているように、「伊良部を追いかける旅」でもあった。一人称で書かれた「はじめに」で、読者は著者を道案内に旅に出、並はずれた浮沈を繰り返す伊良部の人生を見せてもらう。そして、最後に再び一人称の「あとがきにかえて」で、著者と読者の旅が終わる。ネガティブなイメージをまとめて逝ってしまった伊良部秀輝だが、その一生はピッチャーマウンドという孤独な聖地に立ち、あらゆることをはねのけようと全力投球をした人生だった。だから投球術の習得にはことさら熱心な勉強家でもあった。野球がやりたいという気持ちだけ

は常に持ち続け、必死に自分の居場所（投げられる場所）を求めてもがいている伊良部の生き方が痛々しくさえ感じられる。足で歩いて、話を聞くという手法自体は、人物ノンフィクションとしてオーソドックスなものといえるが、著者は、～した。～した。と短い文を連ねて、淡々と語るその文体によって、伊良部の素顔に立体的にさまざまな色を重ねていく。著者の精力的な取材活動と構想力により、伊良部秀輝の墓標に一条の光があたったかのような一冊である。まさにスポーツノンフィクションという出来栄の快作といえよう。

●『五輪の哲人 大島鎌吉物語』

毎日新聞東京本社 運動部 滝口 隆司（たきぐち たかし）

本連載は世に知られた存在とはいえない大島鎌吉の来歴、行動、思想を紹介するものであるが、根底にあるテーマは「平和」である。「戦後70年に向けて」の大型連載の一つとして、世界の平和のためにスポーツは貢献できる、世界中の青少年をスポーツで結び親善と友好を促進するのが五輪精神である、という大島の思想を今改めて紹介しており、それは2020年に向けての提言ともなっている。内容は毎回一つのテーマで大島の五輪経験、戦争体験、思想の深化、ぶれずに守り続けた思想などを要領よく紹介している。五輪の根底には、スポーツで集うことで親善を深め平和に寄与するという目的があり、またスポーツには確かにその力がある。その力を信じてスポーツの可能性に賭けた古い「哲人」を紹介することで、オリンピックの原点を見つめ直し、考えさせる筆者の意図は明確に伝わってくる。

改めて感じさせられるのは大島鎌吉の「すごさ」である。2020東京オリンピックの根底を支える理念を点検し、オリンピック・レガシーを検討する上で大島の功績を無視することはできまい。新聞連載としては、時宜にかなった課題を提起する久々の力作だと言っていいだろう。

以上

（お問合せ先）

公益財団法人ミズノスポーツ振興財団事務局 内橋 TEL. 03（3233）7009

ミズノ株式会社 広報宣伝部 東京広報課 木水 TEL. 03（3233）7037